

日本の Gender Equality Toolkit の開発のためのスポーツ組織の現状と課題

順天堂大学大学院

スポーツ健康科学研究科

学籍番号：4119029

氏名：竹澤 美郁

【目的】

本研究の目的は、日本のスポーツ組織を対象とした **Gender Equality Toolkit** を開発するために、日本の主要なスポーツ組織の **Gender Equality** に関する活動の現状と課題を明らかにすることである。

【方法】

Montreal Toolkit (IWG)、IOC 25 Recommendation および COE/EU の Toolkit の内容から **Gender Equality** の 18 の観点を抽出した。対象は、2017 年にブライトン+ヘルシンキ 2014 宣言に署名した日本の 5 つのスポーツ組織とし、各観点について取組状況や今後の取組を実施する優先順位、タイムラインを調査した。Google Form を用いたアンケート調査の回答について内容分析を行った。

【結果】

調査した 5 つのスポーツ組織の全てが【金銭的資源】を除く 17 項目に関連する取組を行っている。また、【リーダーシップ】と【スポーツにおける暴力やハラスメント】の項目については、今後積極的に取り組む予定であることが確認された。一方、【金銭的資源】の項目については、いずれのスポーツ組織においても取組がなく、今後の予定も確認されなかった。

【結論】

本研究は、国際的な **Gender Equality** の視座から、【金銭的資源】を中心とした日本のスポーツ組織の課題を明らかにした。そして、日本のスポーツ組織を対象とした **Gender Equality Toolkit** を開発するためには、海外で示されている 18 項目を基盤としながらも、**Gender Mainstreaming** のような政策概念が取り入れられていないという社会的・文化的背景を考慮したアプローチが必要になることが示唆された。